

2017年度 U-9チーム 活動報告

2017年4月に10人でスタートし、途中で一人が残念ながら退会したが、新しい仲間が5人参加してくれ、後半は14人で活動した。年度当初はそんなに勝てなかったが、2018年に入ってからの試合では、24勝7分け3敗とほとんどの試合で負けなくなった。特に、8チームが参加した2月10日の「アルテリーボ湯浅カップ」で優勝できた時は、初めてもらった優勝トロフィーを手に全員が飛び上がって喜んだ。

3年生になった4月当初は、パスやコントロールの基本練習をやってみたが、思うように進まず、なによりブレイヤーの練習に取り組む表情がそんなに楽しそうに見えなかったため、その練習はやめてしまった。

トレーニングの基本的な組み立ては、ボール・タッチとリフティングを交互に行うウォーミングアップで始め、ドリブル・ターンのドリル、相手を置いたゲーム形式のテーマ・トレーニング、ゲームの形で進めることにした。相手を置いたゲーム形式のテーマ・トレーニングでは、ゴール（または攻撃方向）がある、攻守の切り替えの連続がある、順番を待つときも準備に備えておくことが必要なメニューを考えた。

テーマとして設定したのは、「M-A-T-M」の考え方を取り入れ、試合の中で感じた課題をテーマに設定した。例えば、コンタクト・プレーが弱いと感じた時は、それをテーマにし、パスの受け方を工夫する必要があると感じた時は、相手プレイヤーの陰（死角）から出ることをテーマにした。

試合で年間を通じて課題としたのは、次の諸点である。

- ◇短い時間のウォーミングアップで、試合に必要なコンディションを作る
- ◇ポジションの役割を理解して、責任を果たす
- ◇ボールを奪われたら、全力で奪い返しに行く
- ◇攻撃の組み立ての基本は「外⇒縦」、できれば「バックターン⇒逆サイド⇒縦」
- ◇パスを出すときは、味方プレイヤーより相手プレイヤーを見る
- ◇コンタクト・プレーは、腕・肩・腰を使って思い切って当たる
- ◇カバーリングのポジションに速く入る
- ◇セットプレーのチームのやり方を徹底する
- ◇トレーニングで取り組んだことを、勇気を出して試合でやってみる

一年間のチームの活動を通じて、サッカーの基礎となるドリブル・ターン、コントロール、キックなどのボール・スキルは上達したし、試合に必要な基盤もできつつあると実感することができた。指導に当たっては、トレーニングに取り組むプレイヤーが集中し、前向きに全力で取り組んでいるかを常に気にし、必要な声掛けを時にきつい大きな声で発してきた。プレイヤーたちは、よく頑張ってくれたと感謝している。チーム作りは、プレイヤーと保護者とコーチの協働作業であることをあらためて実感している。

奥野修造